

## 令和2年度第1回大船渡市スポーツ推進審議会

日時 令和2年11月10日(火) 午後1時30分～午後2時55分  
場所 大船渡市役所 地階大会議室  
出席者 委員：8名  
大船渡市：市長、協働まちづくり部長、生涯学習課長、生涯学習課長補佐、  
スポーツ推進係

[会議内容]

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 会長及び副会長の選任について

会長に田中正芳委員、副会長に谷山誠志委員を選任した。

### 4 議 事

第1号 大船渡市スポーツ施設整備基本計画（案）について  
事務局より、資料1及び資料2のとおり説明した。

〈意見・質疑応答〉

- ・ （中村和司委員）市営球場は建替再整備となっているが、建て替えるまでの基本計画のよ  
うなものはあるのか。  
→ （生涯学習課長）現在がどのような状況なのか施設を評価して、50年以上経過している  
市営球場については、使い続けるよりも建替再整備の方がよいとなったところである。  
具体的な整備の計画については、後半部分で説明予定である。
- ・ （田中正芳委員長）この施設評価の中に含まれない、当てはまらない項目、例えば、文科  
省が挙げる耐用年数があるし、東日本大震災による影響や沿岸だと塩害などがあると思うが、  
普通の評価とは違う、大船渡特有の評価があってもいいのではないか。  
→ （生涯学習課長）立地や環境による劣化の差もあろうかと思うが、外観・内観を見た状  
況で評価を行ったものである。耐用年数を60年と定めているが、市内のスポーツ施設は  
老朽化していると言いながらも、30年を過ぎた施設がほとんどであり、今後も30年近く  
使い続けたいという部分はある。
- ・ （伊勢良行委員）具体的な評価内容という部分でまだ不明なところがあるが、例えば市営  
球場であれば、球場の施設全体の評価でこのようになったのか、それとも付随する施設、ト  
イレとかサブグラウンドとかそういったものも含めた総合評価なのか。  
→ （生涯学習課長）市営球場については、附帯部分の評価がかなり低くなっている。グラ  
ウンド面は、応急仮設住宅からの復旧で天然芝の敷設、安全対策のフェンスの張り替えな  
どいろいろ行っているところだが、いかんせん今の硬式野球の規格に合わないというところ  
がある。駐車場が少ないし、サブグラウンドもない、夜間照明もない現状にあるので全  
体として建替再整備という結果になったところである。  
→ （伊勢良行委員）そうすると各施設そのものも、いろんな形で評価して、全体的な評価  
の結果がこのようになったということによろしいか。  
→ （生涯学習課長）重点を置いているのは、「安全性・機能的性」評価の部分である。だが、

全体として評価しての結果である。

- (吉田勝委員) 3、4年前に国体があったが、大船渡市の施設はどの国体種目にも選ばれなかった。大会基準に達しなかったからだろう。野球の話をする、県教育委員会に県南地区を会場にしてほしいとお願いに行った。住田町は供用していたが、陸前高田市と大船渡市はまだ供用していなかったため、外れた経緯がある。それで県北で開催されることとなった。テニスだと8面ないと県大会などが開催できないから、田中島グラウンドのところに拡張してはどうか、などいろんな話をしてきた。
  - (田中正芳委員長) 私は体育協会にいる者として、今の吉田委員の発言は、各協会から東北大会規模の大会が開催できる施設が望ましいという声じゃないかなと思う。事務局にはよろしく願いたい。
  - (生涯学習課長) 新しい施設の整備について、そういう点は考慮していかなければならないことだとは思いますが、この計画はこの先10年間の計画であり、施設を新しく建て増ししましょうかとか、今ある施設を建替再整備していきましょうかとか、そういう話にはなかなか、この先10年間ではできないかなとは思いますが、将来的には、県大会なり東北大会が開催できる規模の施設の整備につなげていきたいという思いはある。
  
- (中村和司委員) 経済性評価の「劣」とはどういう意味か。
  - (生涯学習課長) 具体的には22ページになるが、経済性評価の評価基準があって、それぞれでA～Dの評価を付けながら、トータルで「良」か「劣」かの判定を行った。
  
- (新沼良治委員) 整備から30年とか40数年が経過しているということで、市営球場は50年以上が経過して建替えも視野に入れてということだが、他の施設もあと10年も経てば建替えの時期を迎えると思う。そういうことも視野に入れて議論をお願いできればと思う。
  - (生涯学習課長) そういう視点に立って詳細検討を行っている部分もあるので、後で説明したいと思う。
  
- (中村和司委員) 41ページの市民体育館について、適用手法が長寿命化、整備方針が施設更新について並行して検討を進めるということなので、先ほどから出ているように、規模を大きくするような方向性が見えないかなと思う。どのような計画になるのか。
  - (生涯学習課長) 市民体育館の更新の検討ということで、53ページの「施設更新の検討の視点」「①総合体育館としての機能」を備えることを検討していくこととしている。実際に市民体育館をいつ整備するのかまでは記載していない。
  - (協働まちづくり部長) 規模については、53ページの①、②で記載しているとおりになれば、現市民体育館よりも必然的に規模は大きいものになるということ、検討するに当たっては謳っていることになる。そういった観点で検討していくということ、ここで明らかにしているつもりである。
  
- (新沼良治委員) 市内のスポーツ施設を見ると全部中途半端である。大船渡市のスポーツ推進の立場からも、市民体育館が市民のスポーツの推進になっているかということ、そうではない部分もあると思っている。ここにもあるとおり、体育館はあるが観客席がない。観客席がなくて大会誘致ができるかということ、それは難しいのではと思っている。それから、テニスコートで田中島グラウンドの辺りに観客席を、ということだが、テニスコートが8面になればそこだけではちょっと難しいかなと思ったりもする。テニス関係は素人だが、今の施設をぱっと見た時に、現存施設の解体は抵抗あると思うが、管理棟を移動して、そこにまた観

客席を整備する余地もあるのかなと思ひ、見たりしている。そういう意味の検討をするのはいいと思っている。いつ実現されるのか心配しているが。それからもう1点、野球場と体育館を同じ場所に整備するのであればいいのかなと思う。そこに陸前高田市みたいに広い駐車場を作ると、災害時の拠点になる。これが1番いい方法なのかなと思う。これにはお金がかかるということだが、総合公園を整備する時に山を削って土を運ぶということがかなわなくなった。持っていく場所がなければ、できるかどうかわからないが、その場に積み重ねて高くする方法もあるのではないか。こういった中身で、工夫しながら長期的な検討も併せて考えていただければと思う。

→ (生涯学習課長) テニスコートだが、現状、片側にアルミ製の観客席が設置されている。今想定しているのは、田中島グラウンドの方にコート3面を、周りを囲むように観客席を整備というイメージをしている。管理棟を移設してというのは、まだ新しい施設なので、そこには市の弓道場も隣接しているが、移設というところまではイメージできないでいる。現状の施設をそのまま使い続けるということが基本にあるので、そこまで思い切った計画にはしていない。

野球場について、新沼委員は長洞地区をイメージされている感じがあるが、元々あそこは10haくらいに広げて、土砂は永浜・山口地区の港湾のところに埋めてという計画だった。現状では4ha程度しかなく、ここに体育館も一緒に整備するには狭いかなという感じはしている。土地は取得しているので、削ればいいのかという気はするが、その工事費もかなりの金額がかかるだろうし、削った土の処理の問題もあるので、この場所に野球場と体育館をとというのはなかなか難しいかなと思っている。

→ (新沼良治委員) 先ほどの管理棟を移設するというのは、突飛な話だと思う。市の施設の現状を見ると、こういう形で「しょうがないから」の繰り返し繋がってきているのではないだろうかと思った。せつかくお金をかけて整備するのであれば、少し我慢して、工夫して、いいものを作ればと思う。そうすると、外から大会を呼ぶとか可能になるのではないかとということ。間に合わせで整備してしまっはいけない時期なのだろうと思う。

野球場と体育館の併設をお話ししたわけだが、総合公園を作るのであれば、それなりの広さが必要だったのだろう。であれば、野球場と体育館、駐車場を一式でできないのかなと思った。土の件は私なりに真面目に考えてみたものである。最終的に、そういうものを誰かが考えて、最終的にうまくいったということになれば、市民にとって良いのではないか。

→ (生涯学習課長) 総合公園の整備に見合う土地が市内にない。もう一つの考え方としては、現在の市民体育館の周辺、あそこにも結構な市有地がある。先日集計してみたところ3.5haくらいの土地がある。市民体育館とテニスコート、シーパル大船渡、婦人の家、加工場跡地など、全て合わせるとそのくらいの広さになる。あの辺に総合的な体育館を整備して、他の機能を加えた複合施設みたいなものを整備することはできないかと、そういう考えがあってもいいのかなとは思ふ。

- ・ (田中正芳委員長) トップアスリートもそうだが、市民の方々が集える場所が、施設がよろしいかと思う。県内のいろんなスポーツ施設を見てきたが、内陸部は土地が広いため、総合運動公園的なものがたくさん建っている。この狭い気仙地区の中で、いかに狭い土地を利用しながら、スポーツ施設を整備していくのか。かなり難しいと思う。この9年間の中で、いろいろ検討を重ねながら、住民が集える場になっていけばいいなと思う。
- ・ (伊勢良行委員) 体育館や野球場をいろいろと検討されているのを見て、今までの計画策定に対する経過を見ても、いろんな形で検討されてきたと思われる。先ほど私が申し上げた質問の答えも、ここに出ているように思う。非常に練られてきているように感じている。そ

こで、立ち戻るようで恐縮だが、1ページに「近隣自治体との連携による機能補完・相互利用」と書かれている。これからの人口減少、財政が厳しくなっていくことを踏まえながらの計画だと思うが、機能の補完、相互の利用というのは、気仙地区という点でどういうことを留意されてこの計画が進んできたのか。今までのお話を聞くと、今ある14の施設をいかにどうしようかという議論だと思う。そのほかにこの気仙地区というキーワード、どのようになるのかお聞かせいただきたい。

- (生涯学習課長) 施設整備の計画なので、広域で整備していく、ということはなかなか書きづらい面がある。施設の利用面に関しては、これからは広域で利用を進めていかないと、隣の陸前高田市でも立派な施設を整備しているので、夢アリーナたかたの利用者が1年で減ってきている状況もあるので、あちらの施設を使わせてもらう、あるいはこちらの施設を使ってもらするなど、そういう風に進めていかなければならないと考えている。定住自立圏構想の中で、住田町とはそういう協定を結んでいる。それぞれのスポーツ施設について、相互に使っていきましようというような申し合わせは既に行っているところである。
- (伊勢良行委員) その申し合わせが、この計画に何か表れているのか。申し合わせだけで、相互に利用しましょう、財政が厳しい中、自分たちで施設の整備をして、できたものをそれぞれ使いましよう、では、それは補完とは言わないのではないか。
- (協働まちづくり部長) 広域の利用については、古くて新しい問題である。震災前ほどの自治体でも財政的に厳しく、そういった話が現実的になるという状況だったが、東日本大震災により状況は一変した。まずは災害復旧、施設復旧に取り組んだ。それが今も若干続いているという状況である。この計画を作るに当たっては、気仙地区、釜石市も含めてどういった施設があるかということ踏まえた上で、まず長寿命化を図る、基本的には施設は長寿命化を前提に進んできたところである。こういったことを踏まえて詳細検討を行った3施設(市営球場、市民体育館、テニスコート)については、そういった状況を勘案しても新たな、プラスの投資を検討しなければならないのではないかという判断に至った。東日本大震災を受けて、それぞれの市町村での施設復旧がひと通り終わったかなというところである。今後の具体的な相互利用については、正直、これから深めなければならない状況。繰り返しになるが、この計画を作るに当たっては、周辺の施設の状況を勘案した上であるということをお理解いただきたい。

- ・ (吉田勝委員) 今年は、スポーツ少年団の全国大会が市営球場などで開催されるはずだった。それが主会場争いになった時に、大船渡市には設備がないから、陸前高田市になったという経緯がある。これは整備から50年以上経過しているし、仕方ないことだ。今度は2022年に岩手県で開催されるマスターズの全国大会で、その大会を沿岸南部で開催しようということになり、釜石市が主会場となった。主会場になるのとならないのでは、主会場にならない場合は、大会本部が来ないことから恩恵はあまりないように思う。こうしたことを考えると、陸前高田市のような立派な球場じゃないにしても、こういうこと(他自治体と連携して大規模大会の開催)ができる位の球場があれば、ありがたいと思う。

それから、現市営球場は外野の方が崖になっていて、そこにナイター照明をつけたりするには難しいように思う。中赤崎地区に新しい球場ができるということになれば、今、三陸総合運動公園の野球場と市営球場を併用しているが、昔はセメントの球場もあつたりしてたくさん観客が来たものだが、今は関係者以外ほとんど来ない。末崎から綾里まで、審判員が移動するのに1時間かかる。往復だと2時間。水沢を往復するのと変わらない位時間がかかってしまう。それを、赤崎は中央だから、中赤崎地区に球場が整備されれば非常にありがたいなど野球協会は思っている。野球協会からも要望しているし、市体育協会の方でも要望に行

っているようだ。野球協会としてもぜひお願いしたい。

それから、子どもたちを、小さいうちから中学生ぐらいまでは地元で試合を見ることができが、高校生や社会人となると、球場がないため市外で試合をすることになり、見ることができない。子どもたちの成長を見ることができなくなってしまう。市の人材育成の一環として、金銭だけで決めることでもないだろうから、ぜひお願いしたいと思う。

→ (田中正芳委員長) 市営球場について、老朽化が進んでいてできれば赤崎に、ということだった。子どもたちのために、ある程度の規模の大会を市内で開催できればいいのかなという御意見だった。佐々木朗希君のような選手が出て、その姿が地元で見れたらいいのかなという気持ちは誰でも持っているはず。そういう御意見だった。

- ・ (田中正芳委員長) 山村広場について、トイレが水洗化されていない。汲み取り式で、主に使うのが子どもたちであることから、できれば水洗トイレがほしいと思う。それからオストメイト、今は多目的トイレにはオストメイトがどこにでもついていると思う。そういう設備も配置していただきたいと思う。

御異議等なければ、本計画案について御承認いただきたいがよろしいか。

→ 意見等なし

それでは承認されたものとする。本日は委員の皆様の活発な御協議に感謝申し上げます。

- ・ (協働まちづくり部長) 本基本計画については、文字通り骨格を定めた計画であるということをお理解いただきたい。個別の整備、改修などに取り組むとなった場合には、それぞれで細かい検討がさらに必要になるということも御承知おきいただければと思う。

当市には、これまでスポーツ施設の整備に関する総合的な計画がなかった。このような計画をようやく整えることができた。ある意味、ここが出発点であると考えている。正直なところ、あれもこれも、というわけにはいかない。複数の施設を同時に整備するという状況にはないことは、御理解いただけたと思うが、いずれ、この計画をもとに適宜、市の総合計画や公共施設等総合管理計画等と整合を図りながら、そして、財政状況、社会情勢を見極めながら見直しを図りつつ、できるだけこの計画を具現化できるように取り組んでまいりたい。引き続き皆様の御支援、御協力を切にお願いしたい。

## 5 その他

なし。

## 6 閉会